

第56期 株主通信

第2四半期／上半期報告書

2019年4月1日～2019年9月30日



夢見た未来が、はじまっている。

今までにない価値を、お客さまと共に創り続けて55年。

ITで広がる可能性と共に、JBグループはその先へ。

願いを叶える未来は、すでに動き出しています。

Transform — ITのチカラで、未来を変えよう。

Thanks
55th
Anniversary

JBCC
holdings

JBCCホールディングス株式会社

証券コード：9889（東証一部 情報・通信業）

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当社の経営に一方ならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。JBCCホールディングス代表取締役社長の東上でございます。

今年度は4ヵ年の中期経営計画「Transform2020」3年目にあたり、“Transform2020中計の達成”、“働き方改革のスタート”、“継続的成長への転換”を当グループの経営基本方針と位置付け、業務自動化技術であるRPAや、AIを活用した現場でのデータ活用などの先進ソリューションを具体的に提案することにより、お客様のデジタル・トランスフォーメーション（DX）へ貢献するとともに、さらなる業績の向上に取り組んでまいりました。

上半期の連結業績は、クラウドサービス、セキュリティサービスやNew SI（新しい手法によるシステム開発）など戦略的注力分野が事業を牽引し、システム開発及びIT構築サービスが過去最高の受注水準となったことに加え、Windows10への更新需要の寄与もあり、ビジネスは極めて好調に推移し、既に本年7月に連結業績の上方修正を実施したところでございます。

特に情報ソリューション分野において、システム開発、サービス、システムのいずれにおいてもビジネスが拡大し、売上高34,613百万円（前年同期比22.3%増）、営業利益2,037百万円（前年同期比50.3%増）、経常利益2,127百万円（前年同期比47.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,377百万円（前年同期比37.7%増）となり、上半期としては過去最高益となりました。

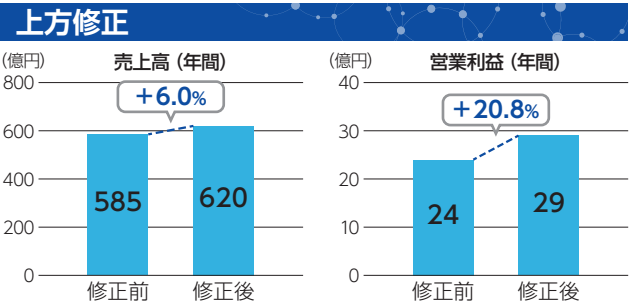
そして、今般の業績進捗状況を踏まえ、株主様への還元強化施策として、中間配当及び期末配当の増配を行うとともに、自己株式取得（300,000株もしくは600百万円を上限とする自己株式の信託方式による市場買付）を実施しております。

私たちJBグループは、社員一人一人が明るく楽しく生き生きと、新しいことに果敢にチャレンジし、お客様と共に未来を切り開く企業グループでありたいと考えています。株主の皆様からも、今以上に期待される企業グループとなるべく変革を続け、ビジネスの拡大と発展を目指してまいります。引き続き、ご支援をお願いいたします。

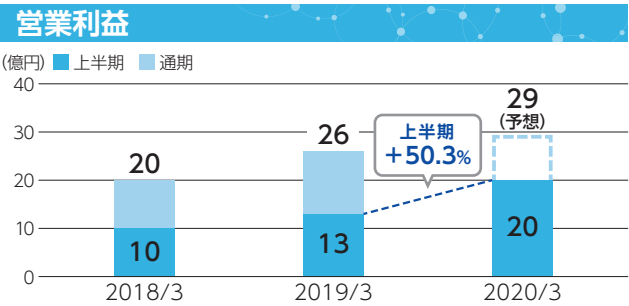


JBCCホールディングス株式会社
代表取締役社長

東上 征司



本年7月に業績予想を上方修正しました。
上方修正後の年間予想に対する進捗率は、売上高/営業利益ともに50%を上回りました。

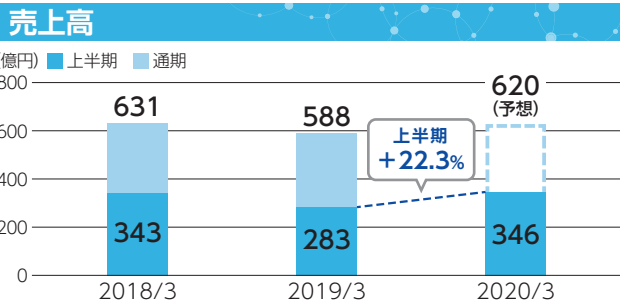


高付加価値ソリューション「WILD7」のクラウドサービスやセキュリティサービス、超高速開発ビジネスが利益に貢献し、前年同期比で**+50.3%**と大幅な成長となりました。

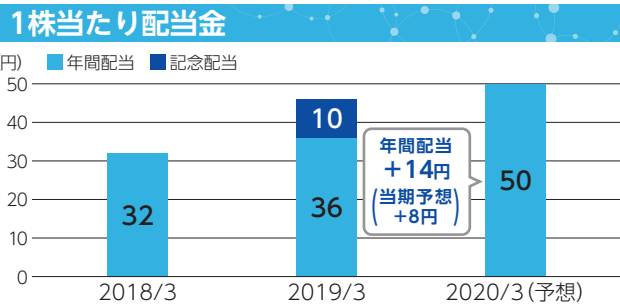
主な経営指標

営業利益率の伸長により、上半期においては過去最高の1株当たり当期純利益を達成するなど、好調な経営環境となりました。

	2018年3月期上半期	2019年3月期上半期	2020年3月期上半期	対前年同期
売上高営業利益率	3.1%	4.8%	5.9%	+1.1ポイント
1株当たり当期純利益	39.3円	59.6円	83.4円	+23.8円



中期経営計画の注力分野である「WILD7」に加え、Windows10更新のPC需要、サーバー構築を中心とするITサービス及びシステム開発ビジネスが好調に推移し前年同期比**+22.3%**となりました。



1株当たりの配当は、当初の配当予想から**8円増やし**、過去最高の**50円**の年間配当予想となります。昨年*と比較すると**+14円**となります。

*55周年記念配当を除く

財務の状況

連結貸借対照表			
(単位：百万円、端数切捨て)			
科目	当第2四半期 連結会計期間末 2019年9月30日現在	前第2四半期 連結会計期間末 2018年9月30日現在	前連結会計年度末 2019年3月31日現在
資産の部			
流動資産	25,383	21,856	23,597
現金及び預金	7,660	8,138	7,648
受取手形及び売掛金	13,484	10,829	12,369
商品及び製品	2,208	1,001	1,569
仕掛品	378	328	310
原材料及び貯蔵品	327	399	351
その他	1,325	1,159	1,347
固定資産	9,824	10,329	10,003
有形固定資産	1,963	2,049	1,977
無形固定資産	569	658	578
投資その他の資産	7,291	7,621	7,447
資産合計	35,208	32,186	33,600
負債の部			
流動負債	14,264	11,575	13,394
支払手形及び買掛金	5,973	4,620	5,256
短期借入金	350	376	356
未払法人税等	846	575	918
その他	7,094	6,002	6,862
固定負債	4,350	4,559	4,452
退職給付に係る負債	3,710	3,870	3,761
その他	639	688	690
負債合計	18,615	16,134	17,846
純資産の部			
株主資本	16,222	15,283	15,253
資本金	4,713	4,713	4,713
資本剰余金	4,905	4,885	4,885
利益剰余金	7,738	6,343	6,823
自己株式	△1,135	△660	△1,169
その他の包括利益累計額	351	750	481
その他有価証券評価差額金	755	1,206	918
為替換算調整勘定	△12	9	△1
退職給付に係る調整累計額	△391	△465	△435
非支配株主持分	19	17	18
純資産合計	16,593	16,051	15,753
負債・純資産合計	35,208	32,186	33,600

1 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の増加は657百万円となりました。増加要因としては、主に税金等調整前四半期純利益2,086百万円、減価償却費207百万円、仕入債務の増加710百万円、未払費用の増加285百万円、減少要因としては、主に売上債権の増加939百万円、たな卸資産の増加682百万円、その他に含まれて

連結損益計算書			
(単位：百万円、端数切捨て)			
科目	当第2四半期連結会計期間 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	前第2四半期連結会計期間 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	前連結会計年度 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
売上高	34,613	28,303	58,899
売上原価	25,064	20,095	41,927
売上総利益	9,549	8,207	16,972
販売費及び一般管理費	7,512	6,851	14,340
営業利益	2,037	1,355	2,631
営業外収益	140	165	298
営業外費用	50	80	190
経常利益	2,127	1,441	2,738
特別利益	—	13	28
特別損失	40	—	—
税金等調整前四半期純利益	2,086	1,455	2,767
法人税等	708	454	983
四半期純利益	1,378	1,000	1,784
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	0	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,377	1,000	1,782

連結キャッシュ・フロー計算書			
(単位：百万円、端数切捨て)			
科目	当第2四半期連結会計期間 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	前第2四半期連結会計期間 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	前連結会計年度 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
1 営業活動によるキャッシュ・フロー	657	1,433	1,837
投資活動によるキャッシュ・フロー	△133	△157	△178
2 財務活動によるキャッシュ・フロー	△507	△326	△1,194
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	△0	△9
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5	949	454
現金及び現金同等物の期首残高	7,496	7,042	7,042
現金及び現金同等物の期末残高	7,502	7,992	7,496

いる未払金の減少170百万円、前払費用の増加168百万円、法人税等の支払額又は還付額598百万円によるものです。

2 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の減少は507百万円となりました。減少要因としては、主に配当金の支払い461百万円によるものです。

事業分野別ビジネス概況

情報ソリューション分野

■ システム ■ SI (システム開発) ■ サービス

項目	2019年3月期 上半期	2020年3月期 上半期
売上高	270	334 (+23.4%)
売上総利益	115	128 (+18.2%)

システム開発（S I）及びサービスの受注状況は極めて堅調であり、当上半期における受注及び受注残は過去最高水準となりました。

- S Iは、引き続きNew SIに注力し、超高速開発案件やサイボウズ社のクラウド型開発プラットフォーム（kintone）を活用した脱紙・脱EXCELを実現する業務改善アプリケーション開発等のクラウドネイティブ案件が伸長しました。加えて、大型案件の受注や消費税率の変更対応、ヘルスケア領域での複数の電子カルテ・医事会計のサービスイン等もあり、ビジネスが大きく伸長しました。
- サービスは、サーバー基盤構築サービスが堅調に推移するとともに、セキュリティ及びクラウドビジネスが順調に伸長し、当上半期における新規契約高は過去最高となりました。
- システムは、Windows10への更新のビジネスが好調に推移するとともに、付加価値の高いビジネスとして、仮想化等の次世代プラットフォーム関連ビジネスの強化も進めています。

製品開発製造分野

項目	2019年3月期 上半期	2020年3月期 上半期
売上高	12	11 (-3.2%)
売上総利益	7	7 (-1.8%)

当グループ独自のソフトウェア及びプリンター等の情報機器の開発・製造・販売を行っています。

- J B ソフトウェアは、パートナー経由の販売を中心に売上が伸長しました。
- ハードウェアは、企業ニーズの減少によりインパクトプリンターの売上は減少傾向が続いていますが、パートナーとの協業やお客様へのリプレーズ促進活動等の施策を推進し、落ち込みを最小限に抑えました。

7つの注力事業

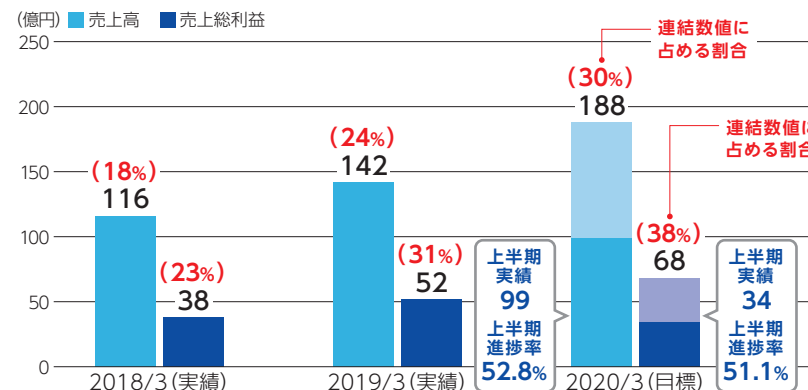
WILD7 ビジネス状況

当社の中期経営計画（2021年3月期まで）の『Transform2020』では、注力事業として7つの事業を定義しています。WILD7と名付けたこれらの成長分野は、お客様のデジタル変革に貢献する高付加価値ソリューションであり、中期経営計画の中核となる戦略です。



WILD7事業分野は、お客様に高い価値をお届けできるソリューションです。WILD7事業に注力し全事業に占める割合を増やすことにより、利益を押し上げることができます。2020年3月期は、**売上高に占める割合30%**、**売上総利益に占める割合38%**を目標としており、順調に推移しております。

WILD7進捗状況と目標値



WILD7 事例

New SI事例

■ 超高速開発とクラウド活用で運用効率5倍

世界展開の大手総合食品飲料会社様の事例。オフコンで稼働していた取引先との受発注システムをJ B C Cの開発手法で従来の三分の二の期間でアプリケーション開発を完了。また、アプリケーションをGeneXus*で開発することにより、その保守・運用効率が5倍に。そして、万が一のための災害対策用のITシステムもクラウドサービスを活用することで、災害時にも業務継続を実現。

* GeneXus : GeneXus S.A.社が提供する開発ツール

**アジャイル開発：短いプロセスを何度も反復して次第に全体を組み立てていく開発手法



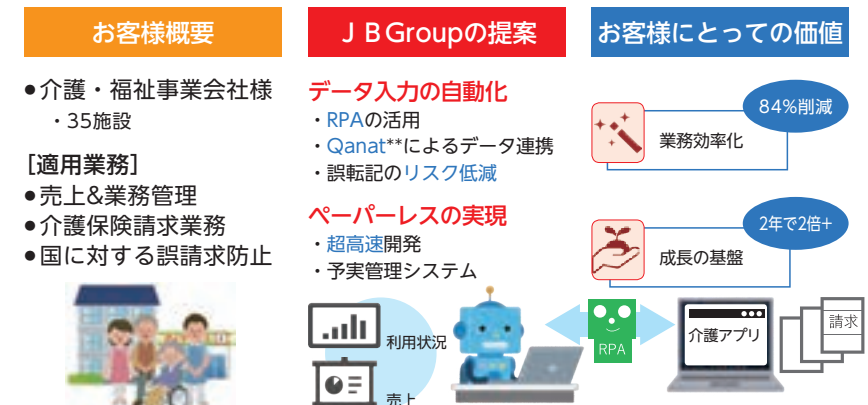
クラウドサービス事例

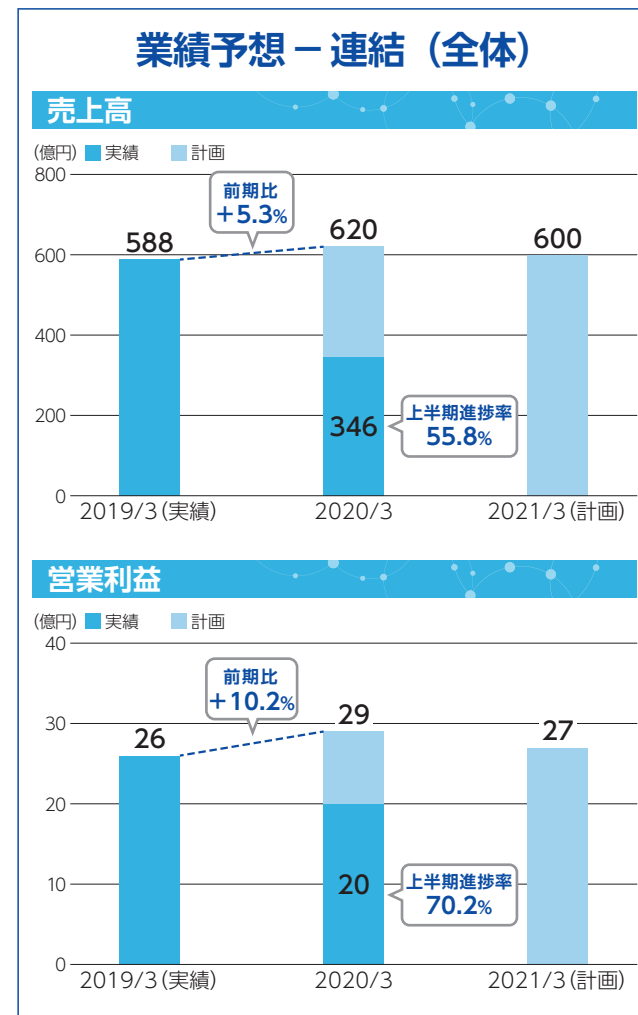
■ データ入力の自動化で業務効率化（84%削減）

介護・福祉事業会社様の事例。35施設の介護サービス付き住宅事業を展開。自動的に入力作業を行うRPA*と呼ばれるソフトウェアを活用し、10人分の仕事を完全自動化するとともに、保険請求の誤りも同時に防止。請求処理数の増加もクラウドサービスで柔軟に対応できるので、ビジネスの成長への備えも万全。急成長する介護事業の礎となる情報基盤を実現。

* RPA (Robotic Process Automation) : 機械学習、人工知能などを活用した、オフィス業務の効率化や自動化のための技術

**Qanat : 当グループのJ B アドバンスト・テクノロジーが提供するデータ連携ツール





2020年3月期は、連結業績及び注力分野ともに順調に推移する見込みです。来年度を最終年とする当社の中期経営計画『Transform2020』を今後も推進し、堅調なビジネス環境を目指します。当グループの高付加価値ソリューション分野『WILD7』に戦略的に経営資源を集中することにより、成長の礎として利益の源泉としていきます。



おおしま たかゆき
大島 貴幸さん

ＪＢＣＣの大島と申します。
私は、この10月よりプラットフォーム・ソリューション事業部の事業部長を担当することになりました。新任の事業部長として、とても身の引き締まる思いでいます。

私が担当するプラットフォーム・ソリューション事業部は、お客様のビジネスに最適なIT基盤を提案するという役割を持っています。事業分野では、ハードウェアやソフトウェアの物販であるシステム分野とクラウドサービスに関わる事業領域となります。単にシステムやクラウドサービスを提案・販売するだけではなく、ＪＢＣＣ独自のサービスの提案にもつながり、お客様にも満足いただくとともに、ＪＢＣＣにとってもビジネスの創出につながる重要な役割を担っていると考えています。

今年度は、Windows7保守サービス終了に伴うWindows10対応のためパソコンビジネスが活況ですが、私もITインフラの技術者としてお客様に相對してきた経験と新しいテクノロジーを組み合わせ、ＪＢＣＣの価値を最大限にお客様にお届けできる仮想化技術やクラウドサービスなどの“高付加価値ソリューション”をもっともっと提案していきたいと思っています。

私の夢は、事業部の全員が、ビジネスパーソンとして、どこでも通用する普遍的なスキルを持ったプロフェッショナルになって欲しい、そういう人材を育てられる事業部長になれるようチャレンジしていきたいと強く思っています。



きもと ともこ
木本 智子さん

私は、2004年に新卒で入社以来一貫して、お客様にITの導入・構築支援サービスを提供するIT技術者として、プロジェクト・マネージャーとして仕事をしてきました。私の性格としては、ある一定の範囲の仕事やIT技術分野に、一点集中して成果を上げていくというスタイルなのですが、もっと広い視野で経営やビジネスの勉強をしてみたいとの思いが徐々に強くなり、上司とよく相談の上、ＪＢＣＣホールディングス 経営企画に志願して異動となりました。

経営企画の仕事は、四半期決算や財務諸表の読み込み、取締役会や経営会議の運営、グループ各社の経営者の皆様とのコミュニケーションなどなど、これまでまったく経験のなかった業務ですので、非常に緊張し、あたふたしてしまう場面もありますが、役員や上司、同僚の皆さんの温かい支援のおかげで何とか日々を乗り切っているという状況です。

私はこれまでお客様第一で仕事をしてきたという自負があります。また、IT技術者のスキルもITインフラ構築の分野では誰にも負けないという自信も持っています。現在、経営という観点での仕事にチャレンジしていますが、この経験乗り越えて、もうひと回りビジネスパーソンとして大きくなって、現場でもう一度お客様と一緒に仕事をする際には、経営を理解できる技術者としてお客様と共に成長していきたいです。

テレワークの推進



自宅です仕事をする宮根さん

多様な働き方を実現



副業

フルフレックス

短時間勤務

シニア社員活躍支援

プラチナキャリア制度

匠 極

働き方の選択

やりがいと働く意欲の持続

みやね

宮根 さおりさん

宮根と申します。マーケティング部門で、ホームページやメルマガを通して、お客様にセミナーのご案内や様々なキャンペーン、新しいお客様事例などをお伝えする仕事をしています。

J B C C に新卒で入社し、システム・エンジニアとしてWebアプリケーション開発に従事しておりました。その後、家庭の事情などがあり、残念ではありましたが退社することになりました。12年前のことです。

昨年、当時の同僚から、もう一度 J B C C で働きませんか、とお誘いをいただきました。とてもうれしく思いましたが、家族の海外転勤や育児に追われて10年以上会社員としてはブランクがあったため、ふたたび社会で働くことができるのか、正直不安な気持ちもありました。しかし、その社員さんも子供を持つ母親で、最近ではテレワークなどの人事・労務制度も充実したと聞き、それなら子供が小さくても働けるのではないかと考え、**チャレンジ**してみることにしました。ちょうど下の子供が小学校に入学したタイミングでもあったため、今年7月に**正社員として復帰**しました。

現在は、**短時間勤務**で**テレワーク**も活用しながら、無理のない範囲で働いています。**フルフレックス**制度も活用し、家事・育児と仕事とのバランスを図りながら、楽しく仕事ができています。在宅ワークのときには好きな音楽を流しながら、リラックスして仕事をできるところが気に入っています。

また、**副業**も認められているので、出産後、フリーランスで活動していた翻訳の仕事も続けることができています。会社員としてのマーケティング活動や家庭の仕事とは別に取り組める趣味のようなもので、英語が好きなこともあり、いい気分転換にもなっています。

マーケティング部門には60歳を超える**ベテラン社員**さんもいらっしゃって、先は長いのですが、私も長く働きたいと思っています。

mirai lab.
create value, make happy

矢嶋さん

藤井さん

福島さん

近藤さん

蓮本さん

長谷部さん

高浜さん

「未来ラボ」新たな価値創造チーム

お客様の期待を超える、新たな価値の提供

たかはま ゆうじ

高浜 祐二さん

“未来ラボ”ディレクターの高浜です。“未来ラボ”は今年4月に設立された新しい組織です。J B C C の取締役常務執行役員 テクノロジー推進担当（CTO：Chief Technology Officer）でもある蓮本さんが、エグゼクティブ・ディレクターとして未来ラボのメンバー6名を統括しリードしています。私はチームメンバーとビジョンを一緒に描き、それを具体的なプランにして実行していく立場になります。

未来ラボでは、「**ワクワクするような新しい価値をテクノロジーで創造し、明日のビジネスに貢献する**」を旗印に掲げ、新しい**チャレンジ**を始めています。お客様の夢を実現するという“お客様視点”を基軸に置き、数年先の将来を見据えながら、本流になる

であろう先進的なIT技術を積極的に取り入れ、具体的なサービス・モデルをデザインすべく、チームメンバー全員で取り組んでいます。

私はこれまでIT技術者やマネージャーとして、お客様と直接会話しながら、長年仕事をしてまいりました。最近は新しいテクノロジーを利用し、あらゆるデータをデジタル化することで、お客様のビジネスに貢献できるのか？それをいかに素早く実行できるようにするか？を常に考えています。

そのお客様視点の経験を最大限に活かし、若いメンバーのスキルやアイデアを集約して昇華し、お客様から“すごいね。一緒に夢を実現して欲しい”と言ってもらえるように全力で**チャレンジ**しています。

アンケートのご報告

株主様アンケートの結果をご報告します。

本年6～7月にかけて実施いたしました株主様アンケートには、多くのご回答をお寄せいただき、ありがとうございました。いただきました貴重なご意見は、今後の経営に役立てるとともに、IR活動の参考とさせていただきます。

実施期間
2019年6月20日～7月22日
回答方法
はがき、インターネット
回答人数
1,452名(回答率 23.4%)

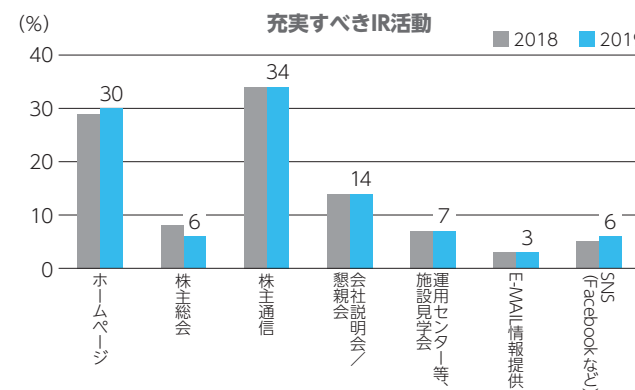
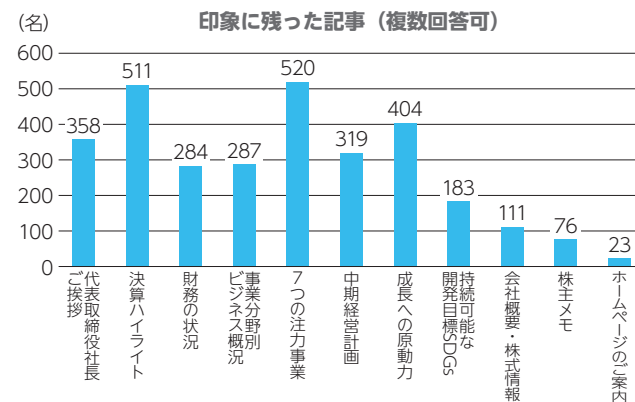


株主通信について

印象に残った記事の上位は、「7つの注力事業」「決算ハイライト」「成長への原動力」でした。今回、新たに「成長への原動力(社員インタビュー)」として当社で働く社員を紹介させていただきました。社員を身近に感じられてよかった、これからも社員の想いを届けてほしいというご意見を多くお寄せいただきました。「7つの注力事業」ではお客様事例をご紹介します、事業内容が具体的にイメージできて良かったとご評価いただきました。今後も、当社をわかりやすくご紹介してまいります。

当社のIR活動について

充実を希望される活動は昨年同様、「株主通信」「ホームページ」でした。当社ホームページで掲載している決算説明会の資料や動画は役立つといった声や、メール及びWebの充実は必要だが、株主通信などの紙媒体も残してほしい、といったご要望もいただきました。今後もさまざまな媒体を通じて、認知向上につなげると共に、より多くの方に当社への理解を深めていただけるようなIR活動を推進してまいります。



寄せられたご意見をご紹介します。

アンケートでは、数カ所にコメントをご記入いただく欄を設定し、約1,800件のコメントをいただきました。コメントは、当グループへのご要望やご意見とともに、励ましのお言葉などさまざまですが、一部をご紹介します。



WILD7の分野での収益増を期待しています

2021年3月期をゴールとする中期経営計画「Transform2020」では、収益性の向上を掲げており、7つの成長事業(WILD7*)への取り組み等で収益の向上に努めております。進捗状況は、株主通信で紹介をしておりますので、ご確認ください。

*WILD7=クラウドサービス、New SI、セキュリティサービス、JBソフトウェア、3D事業、ヘルスケア、人材育成サービス

中期経営計画

<https://www.jbcchd.co.jp/corporate/midplan/>



株主総会やIRフェア等は遠方なので参加できません

「定時株主総会」「決算説明会」の動画を公開しております。遠方や当日ご都合がつかないなどでご出席いただけない場合は、ぜひこちらをご覧ください。また、IR資料も下記サイトよりダウンロードいただけます。

動画配信

<https://www.jbcchd.co.jp/ir/library/movie/>

IR資料室

<https://www.jbcchd.co.jp/ir/library/>



あらゆるメディアでの広報活動をお願いします

今年も羽田空港の旅客ターミナルや東海道新幹線などの交通広告をはじめ、テレビ東京での番組提供など、さまざまなメディア(新聞、雑誌、テレビなど)を通じた認知向上活動を行っております。また、日々の活動をFacebookやTwitterなどSNSでも発信しています。みなさんのフォロー、いいね!をお願いいたします。

公式SNS

Facebook <https://www.facebook.com/jbcchd>
Twitter <https://twitter.com/jbcchd>
Youtube <https://www.youtube.com/jbcchd>



富士山の森づくり活動は大変良い事だと思うので、これからも環境保全やCSR活動も頑張ってください

2017年より継続した国内緑化活動として、富士山麓に広がる人工林を豊かな本来の自然の森に再生する「富士山の森づくり」活動をはじめました。JBグループでは、社員一人ひとりが社会に貢献する活動を推進しております。JBグループのCSR活動は、下記サイトでご紹介しております。

社会・環境活動(CSR)

<https://www.jbcchd.co.jp/csr/>



実施報告は、
当社ホームページでも
ご報告しております。

「よくあるご質問」では、ご質問の一部の回答もご案内しています。また、「IR資料室」では、以下の資料をご確認いただけます。
決算短信/有価証券報告書/株主通信/決算説明会資料/株主総会資料/動画配信

投資家のみなさまへ

<https://www.jbcchd.co.jp/ir/>



持続可能な 開発目標 SDGs

J Bグループは、国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」(2030年に向けた持続可能な開発に関する17の目標と169のターゲット) の達成に寄与することを意識してCSRへの取り組みを推進しています。



この秋には、大型台風などにより、各地に甚大な被害が広がりました。J Bグループでは、被害地区のお客様向けに「特別修理サービス」を実施し、被災された企業の一日も早い復旧のお手伝いをさせていただいております。毎年、大きな災害が続きますが、J Bグループでは、継続して被災地に寄り添うことが大切と考えており、東日本大震災の被災地支援もひきつづき活動しています。2019年6月と10月には、社員が現地で森の防潮堤をつくる活動「鎮守の森のプロジェクト」に取り組んできました。

被災地 支援

鎮守の森のプロジェクト

- 南相馬市鎮魂復興市民植樹祭 (6/1準備、6/2植樹祭)
- 宮城県岩沼市 蒲崎公園、長谷釜公園他 (10/5-6)



「鎮守の森のプロジェクト」に賛同して、2013年から通算15回の活動となりました。今年度は、6月に南相馬市の植樹祭に参加し、前日の準備もお手伝いしました。10月にはJ Bグループ単独の植樹祭を実施し、1,000本の植樹、昨年植樹した地区の草抜きを実施しました。活動を始めた頃に植樹した樹木は、人の身長をはるかに超える大きさに成長し、今回植樹した苗木も早く大きくなることを楽しみに、現地を後にしました。

また、現地では、仙台市の震災遺構：荒浜小学校も訪問し、津波の脅威や防災の必要性を再認識しました。現地での活動を通して感じたこと、得たことをグループ内にも掲示等で知らせ、防災の重要性をグループ内で共有しています。



J BグループのCSR活動をまとめた、「CSRレポート2019」を5月に発行しました。ホームページでご紹介しておりますので、ご確認ください。

https://www.jbcchd.co.jp/csr/digital_report/2019/



会社概要・株式情報

会社概要 (2019年9月30日現在)

社 名	JBCCホールディングス株式会社 (JBCC Holdings Inc.)
本社所在地	〒144-8721 東京都大田区蒲田5-37-1 ニッセイ アロマ スクエア 電話 03-5714-5171 (大代表)
設立年月日	1964年4月1日
資 本 金	47億1,375万円
グループ社員数	1,868名 [別途有期社員数：208名]

役員 (2019年9月30日現在)

代表取締役会長	山 田 隆 司
代表取締役社長	東 上 征 司
取 締 役	谷 口 卓 三 星 義 明 高 橋 保 時 吉 松 正 三 長谷川 礼 司 (社外) 井 戸 潔 (社外)
取締役監査等委員	赤 坂 喜 好 (常勤) 今 村 昭 文 (社外) 渡 辺 善 子 (社外)

株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数	86,000,000株
発行済株式の総数	17,773,743株
株主数	6,201名

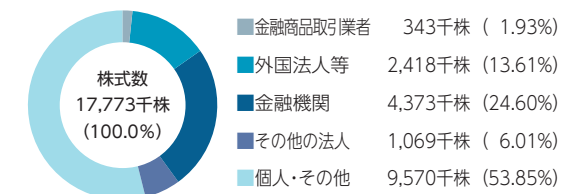
大株主 (上位10位)

順位	株主名	所有株式数	
		千株	%
1	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,376	8.33
2	J B グ ル ー プ 社 員 持 株 会	1,299	7.87
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	938	5.68
4	GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	583	3.53
5	谷 口 君 代	418	2.53
6	富 国 生 命 保 険 相 互 会 社	414	2.51
7	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	294	1.78
8	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口1)	214	1.29
9	明 治 電 機 工 業 株 式 会 社	200	1.21
9	安 田 倉 庫 株 式 会 社	200	1.21

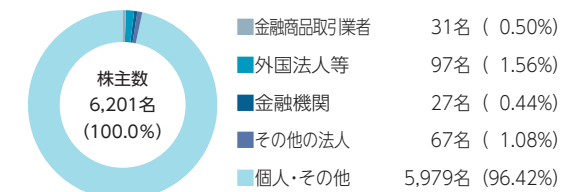
(注1) 上記には、当社名義の自己株式1,244千株は含まれておりません。
(注2) 上記の比率は「発行済株式 (自己株式を除く。) の総数に対する所有株式数の割合」です。

所有者別株式分布状況 (2019年9月30日現在)

株式数



株主数



株 主 メ モ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
定時株主総会 毎年6月に開催
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関
同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話0120-232-711 (通話料無料)
電話042-204-0303 (通話料有料)
受付時間9:00～17:00 (土・日・祝日等を除く)
郵送先 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所
公 告 掲 載 U R L <https://www.jbcchd.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、
その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本
経済新聞に公告いたします。)

お知らせ 株券電子化後、配当金の口座振込のご指定は配当
金振込指定書を各口座管理機関（証券会社など）
を経由してお届けいただくこととなりました。
振込指定の詳しいお手続きにつきましては、お取引
引のある口座管理機関にお問い合わせください。

ソーシャルメディア
を活用し、情報を
お届けしています。



公式Facebook

<https://www.facebook.com/jbcchd>



公式Twitter

<https://twitter.com/jbcchd>



YouTube

JBグループチャンネル

<https://www.youtube.com/jbcchd>



JBCCホールディングス株式会社

決算などの財務情報に関するご質問は

☎0120-887-652 受付時間9:00～17:00 (土・日・祝日除く)

e-mail : ir@jbcc.co.jp



ホームページをご活用ください。

URL <https://www.jbcchd.co.jp/ir/>



決算などの財務内容、プレス
リリースなどを紹介してい
ます。ご質問、ご意見など
をお寄せいただくコーナーも
ございます。



動画配信

URL <https://www.jbcchd.co.jp/ir/library/movie/>
定時株主総会や機関投資家向け決算説明会の動画を配信し
ています。



IRメール配信サービスのご案内

無料

当社ホームページの「IRニュース」などに掲載された各種
新着情報を、メールでご案内しています。
「株主・投資家情報」左メニューの「IRメール配信サービス」
よりご登録ください。



JBグループ各社の最新情報を
ご案内しています。

URL <https://www.jbgroup.jp/>



グループ各社からの「お知ら
せ」や「製品、サービス（ソ
リューション）」、「お客様事
例」などをまとめてご確認
いただけます。
動画ライブラリーもご利用く
ださい。

UD FONT

